



近年増えている 夫婦墓とは？

子供がいない夫婦や子供にはお墓参りで苦労させたくないと考えている夫婦には、**自分達が亡くなった後のお墓の管理は、悩みの種**かもしれません。実はそのような事情に対応した、**継承しないお墓を作ることもできる**のです。

「1世代だけのお墓」のひとつ、**夫婦墓（めおとばか、ふうふばか）**という言葉を目にしたことはないでしょうか？夫婦墓というのはもともと、墓相のお墓などで先祖代々のお墓の隣に新しく建てる夫婦2人のお墓を指す言葉でしたが、昨今の社会背景にあわせた新しいお墓のカタチとして登場してきました。

お夫婦墓とは

ご先祖が代々眠っているお墓と異なり、夫婦2人だけが納骨される、継承を前提としないお墓のことです。自分たちの子供も親も、基本的には同じお墓に入りません。夫婦が2人ともお墓に入った後は永代供養となり、一定期間はお寺や霊園の管理者の手でお掃除やお参りなどの面倒を見てもらえます。あらかじめ決めておいた33回忌、50回忌などの期間が過ぎたらお墓は解体され、遺骨は合祀墓に移されます。

お墓の管理は死後、その子供や親戚が行うのが一般的です。しかし、子供に負担をかけたくない、子供がいない、親戚と疎遠という方も今は珍しくありません。こういった

方々の要望を満たす、継承しないお墓として夫婦墓は増えてきました。また、代々のお墓と自分たちのお墓を分けたいという方もいます。実家の土地ではなく自分とゆかりのある土地に建てたい、配偶者の家族とは同じお墓に入りたくないといった要望にも夫婦墓は応えることができます。

夫婦墓は墓石にも特徴があります。「～家之墓」とは書かず、夫婦の連名を刻んでいるものも多いです。2人しか使わないお墓なので小さなものでも大丈夫ですし、いずれ解体されることもわかっているので、外柵なども使わないシンプルなものが主流になっています。

夫婦墓のメリット

継承者の負担が減る

管理費等のお墓に関する費用を生前に一括で支払うことができるので、没後に子供や親戚に負担させてしまう心配は基本的にはありません。もしお墓参りに来ることが難しい状況になっても、お寺や霊園に管理してもらえますので、無縁仏になることもありません。

お墓のデザインをあらためて検討できる

新しくお墓を建てることになるので、デザインは自分たちで選ぶことができます。2人だけのお墓ですから、ご親戚の目を気にすることもありません。石材や形もある程度好きなように選べますし、お好きな文字の彫刻を施す方もいらっしゃいます。

夫婦墓のデメリット

合祀墓に埋葬後の遺骨は取り出せない

夫婦墓の遺骨は、あらかじめ決めた期間は個別のお墓で供養されますが、のちに合祀墓に移されます。合祀墓に移った後は、子供たちがやっぱりお墓を建てたいと思ってもお骨を取り出すことができません。親のお墓がなくなったら、子供たちも寂しく感じるかもしれません。良かれと思って、親の意思だけで決めるのではなく、親子でよく話し合しましょう。

夫婦墓の注意点

本当に夫婦だけのお墓で良いのか、子供や親戚とも必ず話し合しましょう。先祖代々のお墓の継承に、影響を及ぼす可能性があるからです。もし叔父叔母や兄弟等に代々のお墓を管理してもらうことができない場合、自分たちの子供が管理することになるかも

しれません。子供たちの負担にならないように夫婦墓を作った方にとって、それは望まない結果のはずです。また、継承者がいない場合は、そのままでは無縁仏になってしまいます。こうした事態に陥らないように、家のお墓のことにも気を配りましょう。

自分にあつたお墓と供養の方法を探しましょう

お墓を継承し、守っていくことは素晴らしい伝統ですが、出生率の低下や核家族化などの社会背景を考慮すると、それが難しい方も今後増えていくことでしょう。お墓の継承者がいない、親戚縁者に自分のことで迷惑を

かけたくない等様々な理由があるかと思えます。お墓・供養の在り方も多様化しています。事前に周囲の人たちも含めてよく検討して、自分達に合ったお墓と供養の方法を決めていきましょう。